

# 南阿蘇村 復興むらづくりだより

～あれから6年  
6集落のいまを刻む～



地震被害の大きかった各地区では、住民の皆さんが復興とさらに地域をより良くしていくための活動に奮闘されています。「南阿蘇村復興むらづくりだより」の中で6地区のいまと「集落復興支援事業」の活動などについて紹介していきます。

## ■長野区のいま

主な地震被害…土石流・河川・橋梁・農地・神社など

集落住宅被害…地震前：125世帯→地震後：全半壊65世帯→現在：86世帯（令和4年10月現在）

長野区は、主に農業（米・トマト）と畜産が盛んな集落で、300年以上続く長野岩戸神楽は、地域で伝承されてきた国選択無形文化財であり、海外公演や地区の祭りでの奉納のほか、神楽体験交流などもおこなわれてきました。

熊本地震本震では地区のほぼ中央を流れる山王谷川支流から大規模な土石流が発生。土砂の撤去が進みはじめた約2カ月後の大雨では再び土石流により大きな被害となりました。その後、地域の安全のため、複数の砂防えん堤が計画され、令和2年3月の県内最大級の砂防えん堤などが完成。現在も工事がおこなわれています（令和4年完成予定）。

集落復興支援事業では「長野区サポーター（交流・関係人口）拡大事業」（長野みらい盛りあげ隊）として、令和元年からSNSの発信を開始。神社の屋根の修復のためのクラウドファンディングや神楽殿を活かした支援コンサートの受け入れなどを実施。コロナ禍で秋季大祭が中止になった年には、代わりに地域を明るく照らそうと長野阿蘇神社のライトアップをおこないました（今年も開催予定）。

令和2年には「歴史・史跡等の研究及びガイド養成事業」（阿蘇南郷史談会）が始まり、南阿蘇村や長野地区の歴史伝承に関する研究や専門講師による講座や関連史跡の研修などを毎月計画。コロナ禍で計画が変更になることもありましたが、毎回多くの参加者があり、貴重な資料や講話で、故郷の歴史などを学び直す機会となっています。

また、地区では他にも震災後の地域コミュニティを見直し、通いの場を設ける取り組みや、地域の清掃活動などがおこなわれています。

今年の夏には、地区で貴重なヒメボタルの生息域を発見。長野みらい盛りあげ隊のメンバーが写真撮影に成功し、SNSにも投稿しました。まだまだ、故郷の新たな魅力を沢山発見できそうな長野地区です。



①二度の土石流があった山王谷川にできた、県内最大級の砂防えん堤 ②長野地区・神楽殿での台湾国立清華大学生の神楽体験 ③阿蘇南郷史談会で開催された公民館での歴史講座

## 長野阿蘇神社 紅葉前後のライトアップ開催

11月1日（火）～30日（水）午後6時～9時

駐車場あり ※階段など足元にご注意ください。

長野地区の日常の風景やイベントの様子は、「長野区サポーターの会」のインスタグラムで見ることができます。

